

「ナラ枯れ」について

サークル活動の帰りに、声をかけてくれました。「山の木が茶色くなり枯れている。そんな木が点々と広がっている」とのお話でした。とりあえず、区長さんに相談してみてもいい？とお答えしたのですが、その後、注意して山を観察すると、^{とどろき}動木から下佐々にかけて南向きの山の斜面に茶色になった木があります。



テレビでは、関東の避暑地^{ひしよち}で被害が出ていて、「ナラ」や「シイ」「カシ」の木が枯れる「ナラ枯れ」であると紹介されていました。これは、カシノナガキクイムシ（カシナガという）^{こんちゅう}昆虫が「ナラ菌」という病原菌^{びょうげん}を木の中に運び込むことによって引き起こされる樹木の^{でんせんびょう}伝染病だそうです。奈良県の HP では、「ナラ枯れ」の見分け方として、被害が発生している樹種^{じゅしゅ}、発生した時期（梅雨明け～8 月頃）、葉が萎縮^{いしゆく}して赤褐色^{せきかつしよく}に変色している等のほか、木の幹（地上～4m 程度の位置）にカシナガが穿入^{せんにゅう}した穴^{あな}があり、木の根元にフラス（カシナガの排泄物^{はいせつぶつ}と木くずがまざったもの）が貯まっていることが大きな特徴^{とくちょう}であると説明されています。木の中で成長・羽化^{うか}した新成虫は、6 月上旬頃からナラ菌をもって脱出し、健全なナラ類^{けんぜん}に飛来^{ひらい}・穿入を行うことで、被害が拡大します。

林野庁の HP には、「都道府県別ナラ枯れ被害材積の推移」が示されていて、和歌山県は、H30（400 m³）、R 元（200 m³）、R2（1,900 m³）、R3（2,100 m³）と近年、急増傾向^{きゅうぞうけいこう}にあることがわかります。



（カシナガ 朽仏シ）



（カインタケ）

その他、「ナラ枯れ」した森林では、被害発生時または数年後に、猛毒性^{もうどくせい}のカインタケが多く発生することが確認されています。毒性が強く、食べても触^{さわ}っても有毒^{ゆうどく}であり、死亡例の報告もあり、注意が必要です。

（令和 4 年 8 月 7 日）